

一日本大学文理学部教授の開会挨拶，津谷典子日本大学経済学部助教授の経過報告に続き，セッション1「日米韓における家族生活の変動」（座長：永山利和，報告者：井上俊一，Larry L. BUMPASS, Yong-Chan BYUN），セッション2「家族と世帯構造」（座長：Karen O. MASON，報告者：黒田俊夫，Andrew MASON，岡崎陽一，佐藤都喜子・野中浩一），セッション3「世代間関係」（座長：Minja Kim CHOE，報告者：Ronald R. RINDFUSS，清水浩昭，Moon-Sik HONG）が開催された。第2日目にはセッション4「結婚，女性および家族」（座長：岡崎陽一，報告者：津谷典子，Karen O. MASON，Minja Kim CHO），セッション5「雇用と家族生活」（座長：Ronald R. RINDFUSS，報告者：降矢憲一，真屋尚生，横山英生，Tim Futing LIAO）の後，セッション6「総括」が行われ，Lee-Jay CHO 博士の司会の下で HONG 博士が韓国，BUMPASS 教授が米国，井上教授が日本についてのまとめを行った。全体として，東アジアにおける家族に関する類似点と相違点が浮かび上がり，興味深かった。米国のデータは既存の全国家族世帯調査（NSFH）のものであったのに対して，日韓両国については日本大学と韓国保健社会研究院が調査を実施したが，その際の連絡・調整については組織者の津谷助教授によるご尽力が大きかったようである。

他方，「アジアにおける労働力移動の動態」は国際交流基金日米センターの協賛と国際移住機関（IOM）の協力の下に，「21世紀人類の豊かさの探求」プロジェクト労働部会とカリフォルニア大学環太平洋プログラムとの共催で行われた。第1日目には永山利和商学部教授による歓迎の辞に続き，セッション1「概説」（座長：Andrew MASON，報告者：Philip MARTIN，Mark MILLER，Jonas WIDGREN，討論者：畠山学，Richard LOHRMANN，M. G. QUIBRIA），セッション2「労働力移動契約」（座長：Jonas WIDGREN，報告者：Philip MARTIN，奥西好夫，討論者：Rashid AMJAD），セッション3「労働者募集」（座長：Prijono TJIPTOHERIJANTO，報告者：永山利和，Su-Dol KANG，Joseph LEE，Florian ALBURO，討論者：畠山学，奥西好夫，Ching-lung TSAY）が開催された。第2日目にはセッション4「専門職」（座長：Ching-lung TSAY，報告者：Philippe GARNIER，小阪隆秀，討論者：Reinhard LOHRMANN，Ronald SKELDON），第5セッション「移動の構造転換」（座長：Reinhard LOHRMANN，報告者：Won-Bae KIM，Lim Lean LIM，討論者：Rashid AMJAD），セッション6「移動と家族」（座長：永山利和，報告者：Eric JENSEN，Graziano BATTISTELLA，論文提出者：Philip GUEST，討論者：永山利和）が行われた。国際労働移動関係の国際会議で見慣れた顔が多かったが，若干の新顔も見られたのは収穫であった。いずれにしても，オブザーバーを含めてこの分野で著名な研究者が一堂に会して討論する機会が設けられたことについて，組織者の永山教授，MARTIN カリフォルニア大学（デービス校）教授に感謝したい。

（小島 宏記）

日本地理学会1996年度春季学術大会

1996年度の日本地理学会春季学術大会は1996年3月28日～3月30日，慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（神奈川県藤沢市）にて開催された。人口研究に関連して以下の5報告があった。

大都市圏郊外住民の居住経歴に関する分析	谷 謙二（名古屋大・院）
一高蔵寺ニュータウン戸建住宅居住者の事例一	
瀬戸内海は中国・四国間の社会・経済的交流をどの程度減じているか	山下 潤（九州大） 村山 祐司（筑波大） 平井 誠（筑波大・院）
兵庫県南部地震災害による人口移動	水谷 武司（千葉大）
最近におけるアメリカ華人社会の変容と郊外型華人社会の形成	山下 清海（秋田大）
戦後パラオへの日本人の移住	田島 康弘（鹿児島大）

第1報告は大都市圏郊外住民の居住経歴についてのアンケート調査の報告である。第2報告は中国・四国地方の47都市間の人口移動（1990年国勢調査）OD行列に空間的相互作用モデルを適用することによって，瀬戸内海がもたらす中国地方と四国地方の都市間の人口移動のバリアは実距離の2.5倍の距離摩擦に相当することを明らか